

2021年6月25日  
株式会社三菱UFJ銀行

自社契約電力の実質再生可能エネルギーへの切替契約締結について

三菱UFJ銀行は、カーボン・ニュートラルを実現するため、国内拠点で使用する自社契約電力を実質的に100%再生可能エネルギーとする契約を小売電気事業者等と締結しました。

これまで、当行は店舗、ATMやデータセンターなどにおいて自社で契約する年間2.3億キロワット時の電力を使用し約10万トンのCO<sub>2</sub>を排出していました(一般家庭約4万世帯分)が、本件切り替えにより、これを実質的に全量削減することになります。

再生可能エネルギーはその供給量や調達手段に限られる状況ですが、2050年までに投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロの実現をめざすために、まずは自ら率先してカーボン・ニュートラルを実現するものです。

本件は、本年5月に発表した「MUFGカーボン・ニュートラル宣言」(※)でお約束した取り組みの一環であり、今後も三菱UFJ銀行は、様々な形態での再生可能エネルギーの拡大を推進し、社会の脱炭素化を牽引してまいります。

(※)MUFGカーボン・ニュートラル宣言

[https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210517-003\\_ja.pdf](https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210517-003_ja.pdf)

以上